

西新橋一丁目で新たな再開発事業

●新橋田村町地区第一種市街地再開発事業

港区西新橋一丁目、かつて新橋田村町と呼ばれていた地区で、新たな市街地再開発プロジェクトが始動しています。都営地下鉄や東京メトロなど複数路線が走り、日比谷公園にも近いエリアにまた新たな風景が誕生します。今回は、〈変わるTOKYO地図〉の一環として「新橋田村町地区第一種市街地再開発事業」についてみていきます。

●利便性の高いエリアの都市機能を更新

東京都は、都市再開発法第11条第1項の規定に基づき、新橋田村町地区市街地再開発組合の設立を平成29年12月26日付けで認可しました。

再開発事業の施行地区は、三方を幹線道路である愛宕下通り、外堀通り、日比谷通りに囲まれ、都営三田線「内幸町」駅、東京メトロ千代田線「霞ヶ関」駅、東京メトロ銀座線「虎ノ門」駅に近接する交通利便性の高い地区です。その一方、地区内には老朽化した建築物や狭小敷地、幅の狭い道路があり、土地の有効利用や防災面での課題が指摘されていました。

今回の再開発事業により、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図り、賑わいや魅力、活力のある複合市街地が形成される予定です。

●賑わい、魅力、活力のある複合市街地へ

街区を再編する今回の事業効果は以下の通りです。

①賑わいや魅力、活力のある複合市街地の形成

業務・交流・生活利便施設等の多様な機能の導入を図るとともに、都心における憩いの場となる広場や緑地の整備などにより、賑わいや魅力、活力のある複合市街地の形成を図る。

②歩行者ネットワークの強化

周辺市街地と連絡する、バリアフリー化された歩行者通路や屋内貫通通路の整備により、安全で快適な歩行者ネットワークを形成する。

③都市防災機能の強化

帰宅困難者のための一時滞在施設の確保、防災備蓄倉庫及び非常用発電施設の整備により、都市防災機能の強化を図る。

●地上27階建ての高層ビルが誕生

事業の概要をみると、施行地区は港区西新橋一丁目地内、地区面積は約1.2haです。建築予定の施設規模は、延べ面積約106,000㎡、地上27階・地下2階建て、高さ約150m。施設用途は事務所、店舗、カンファレンス(会議)室、駐車場等を予定しています。

公共施設等は、地区内集散道路(幅員約7.5m、延長約170m)、屋内貫通通路(幅員約7m、延長約100m)、広場(約1,500㎡、約800㎡)、緑地(約650㎡)が計画されており、総事業費は約609億円です。

このプロジェクトにより、オフィスビルが立ち並ぶビジネス街にまた新たな高層ビルが誕生する他、回遊性や心地よい緑の空間も確保されます。

今後のスケジュールとしては、平成30年3月に権利変換計画認可を受けた後、4月に工事着工、平成33年3月に建物が竣工される予定です。

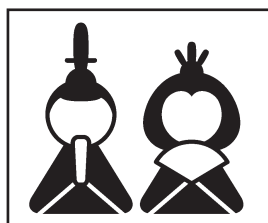
なお、「新橋田村町地区第一種市街地再開発事業」についてのお問い合わせは、都市整備局市街地整備部再開発課(03-5320-5136)までお願いします。



COFFEE BREAK

雛人形がインテリアに?!

女の子の健やかな成長と幸福を祈る桃の節句。雛人形は、節分過ぎ頃から飾るのがよいとされていますが、近年は大人の女性が季節のインテリアとして購入するケースが増えているようです。購入者の年齢層は20~70代と幅広く、それに対応するように雛人形のデザインも伝統的なものから、現代風にア



レンジしたものまで、実に多彩に。たとえば、ブルーや紫などの寒色系をメインにしたもの、黒やグレーのモノトーンで統一したもの、さらに、高級陶器で作った雛人形も登場しています。また、人気の人形作家から雛人形を選ぶこだわり派も。少子化が進む中、思わぬ市場の支えが広がっています。